

# 公の施設の指定管理者における業務状況評価

平成21年9月25日

施設名	高知県立文学館	所管課名	文化生活部 文化・国際課
-----	---------	------	-----------------

## 1 施設の概要

指定管理者名	財団法人高知県文化財団	指定期間	平成18年4月1日～平成21年3月31日 平成21年4月1日～平成26年3月31日
施設所在地	高知市丸ノ内		
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文学に関する書籍、原稿、文献、写真、フィルムその他の資料及び文学者の遺品等(以下「文学資料等」という。)を収集し、保管し、及び展示し、並びに閲覧に供すること。</li> <li>・文学資料等の調査研究</li> <li>・文学に関する講演会、講習会、映写会、研究会等の教育普及活動</li> <li>・企画展示室、ホール及び茶室の提供</li> <li>・上記のほか、文学館の設置の目的を達成するために必要な業務</li> </ul>		
施設内容	<p>○ 面積、施設・設備名、定員、開館時間、休館日、主な料金など</p> <p>&lt;建物&gt;延べ床面積:2,748.10㎡ RC造地上2階建 &lt;土地&gt; 4,747㎡ &lt;主要施設&gt; 常設展示室、企画展示室、寺田寅彦記念室、ホール、茶室など &lt;開館時間&gt;午前9時～午後5時 &lt;休館日&gt; 12月27日～1月1日 &lt;主な料金&gt; 常設展 一般350円 ※高校生以下、高知県長寿手帳所持者(65歳以上)は無料 施設利用料 企画展示室 22,640円(1日) ホール 12,200円(全室/1日) 茶室 3,490円(全室/1日)</p>		
職員体制	常勤職員: 5人 契約職員: 12人 合計: 17人		

## 2 収支の状況

単位:千円

		平成19年度(決算)	平成20年度(決算)	平成21年度(予算)
収入	県支出金	126,469	126,329	122,390
	事業収入	5,746	8,922	4,833
	その他	299	1,148	0
	収入計	132,514	136,399	127,223
	(事業収入)注1			
支出	事業費	30,522	31,539	26,306
	管理運営費	96,090	97,157	100,917
	(うち人件費)	(61,754)	(68,585)	(74,358)
	その他	5,571	6,423	0
	支出計	132,183	135,119	127,223

## 3 利用状況

		平成19年度実績	平成20年度実績	前年度比
①年間利用者数(単位:人)	常設展	1,369人	1,320人	-49人
	企画展	13,938人	22,220人	8,282人
	貸館			0人
	ホール	8,472人	7,979人	-493人
	茶室	3,161人	3,429人	268人
	合計	26,940人	34,948人	8,008人
	<p>&lt;利用実績&gt;H20年度実施した「ターシャ・テューダー展」が企画展としては、開館以来最高の観覧者数9,802人であったことや夏休み企画として行った「ムーミンの世界展」に多くの観覧者(6,244人)があったことから、年間利用者数は34,948人と対前年度8,008人増(29.7%増)となった。</p>			

②利用者意見等の反映	<p>○ 利用者アンケート等の実施状況(時期・方法・回答数・調査結果等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・来館者対象のアンケート実施</li> <li>・展示内容に対する指摘には即時に修正等の対応をすることや、クレーム等に対して迅速な対応を行うことに努めている。</li> </ul> <p>(対応) クレームは記録し、毎朝のミーティングでの伝達や回覧等で職員の共通認識となるよう努めている。</p> <p>○ その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外部有識者による運営協議会(年2回)を開催し、委員からの意見、提案をもとに管理運営の改善に繋げている。</li> <li>・展覧会ごとに実績報告をまとめ、分析し、次の展覧会に活かすように努めている。</li> </ul>
③その他特記事項	<p>①の館の利用のほか、以下のような活動を行った。</p> <p>[教育普及事業] 文学カレッジ 11回(738人)</p> <p>朗読の会 10回(534人)</p> <p>児童生徒文学作品朗読コンクール 39校(105人)</p> <p>記念講演会 3回 200人</p> <p>紙芝居ボランティア公演等 2,371人 ほか</p>

4 平成20年度業務評価

項 目	状 況 説 明
①管理運営に関する評価	<p>受付の雰囲気や職員の専門性、サービスが向上していることなど、経営努力の成果があがってきていることを評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員の専門性が実感できる程に向上しているほか、来館のたびにサービスが向上している点についても評価する。</li> <li>・特に受付の対応は、前年に比べ良くなっている。</li> <li>・県民の目線に立って館の運営に取り組んでいるほか、広報活動も積極的であり、評価できる。</li> <li>・経営努力が収入増に繋がっていることを評価する。</li> <li>・積極的な一連の取り組みは評価できる、今後更なる向上を期待する。</li> </ul>
②事業の実施(企画及び運営)に関する評価	<p>企画展を中心に、この1年間の活動は顕著で、文学を身近に感じさせてくれる企画内容であるとともに、時代のニーズ、県民の興味を満足させ、更に高めていく視点と具体的活動は評価できる。</p> <p>教育団体(高等学校文化連盟、国語教育教員等)との連携を一層密にしていけば、さらに良くなる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ターシャ・テューダ展の成功が評価される。</li> <li>・企画展への積極性、またそれによって多くの企画展で集客を格段に伸ばした実績を高く評価する。</li> <li>・高等学校文化連盟との連携が評価される。</li> <li>・教育普及活動への取り組みは数多くこなしているが、今後より一層内容を充実していけば、さらに良くなる。</li> <li>・カルチャーサポーターの取り組みは、活動内容が多彩で充実しており、参加者も多く評価できる。</li> <li>・20年度は、寄贈者との良好な関係を更に進め、貴重な寺田資料や篤姫関連資料の寄贈を受け、一層の充実を図っている。</li> </ul>
③総体的な評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標の設定、それに対する努力が目に見える結果となり、この1年で大きな成果を挙げている。</li> <li>・管理運営、事業の実施における積極的な取り組みが評価できる。</li> </ul>
総合評価	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ここ2～3年、特に前年度からの大きな変化は目をみはるものがある。企画展の充実、来館者の満足度も充分だろうと思う。文学館の展示方法や企画に努力が見られるので、20年度は評価できる。</li> <li>・前年に比べ、全体的に明るく活気が出てきている。企画展の工夫、事業展開による新しいファンの開拓に期待したい。</li> <li>・今の館運営の勢いを止めないように、今後一層の伸びを期待する。</li> <li>・文学という展示しにくい素材を観客に伝えようとしている努力が評価できる。</li> <li>・入館者の伸びが顕著。研究機関として、引き続きより深く充実を図ることを期待する。</li> <li>・他の施設は、夜にイベントをやって成功している所もあり、「歴史物」や「怪談」など季節と時間にリンクさせた工夫もあっても良い。</li> </ul>

【評価の目安】

- A: 仕様書の内容や目標を上回る成果があり、優れた管理運営が行われたもの
- B: おおむね仕様書の内容どおりの成果があり、適正な管理が行われたもの
- C: 仕様書の内容や目標を下回る項目があり、さらなる工夫・努力が必要なもの
- D: 管理運営が適切に行われたとは認められず、大いに改善を要するもの

※評価項目ごとの評価内容

評価項目	評価	特記事項
1 管理運営の基本方針(総括)	A	◆目標の設定、それに対する努力が目に見える結果となり、この1年で大きな成果を挙げている。 ◆積極的な取り組みが評価できる。
① 平成20年度の高知県立文学館の管理運営(事業)にあたって、どのような方針を立て、どう結果をだしたか。		
② 平成19年度事業評価の結果を踏まえ、どのように取組んできたか。		
2 事業を通じて県民の創造活動の支援、文化振興への寄与ができたか	A	◆文学を身近に感じさせてくれる企画内容であるとともに、時代のニーズ、県民の興味を満足させ、更に高めていく視点と具体的活動は評価できる。 ◆企画展を中心に、この1年間の活動は顕著である。 ◆教育団体(高等学校文化連盟、国語教育教員等)との連携を一層密にしていけば、さらに良くなる。
(1) 展覧会事業の実施		
① 企画展の実施回数及び常設展を含む展示内容、集客目標と観覧者数等の状況	A	・ターシャ・テューダ展の成功が評価される。 ・企画展への積極性、またそれによって多くの企画展で集客を格段に伸ばした実績を高く評価する。
② 理解促進の取組の状況		
③ 展覧会事業についての特記事項		
(2) 教育普及事業その他の事業		
① 事業の内容、件数、参加人数の状況	A	・高等学校文化連盟との連携が評価される。 ・取り組みは数多くこなしているが、今後より一層内容を充実していけば、さらに良くなる。
② 教育普及事業その他の事業についての特記事項		
(3) 事業を通じた創造活動・文化振興の支援		
① 子どもが文学に親しみ感性を育む取組	B	・取り組みへの考え方がよく分かるようになった。 ・積極的な取り組みが評価できる。
② 高齢者や障がい者が利用しやすい取組		
③ 文学活動を支援する取組み		
④ 施設の活用		
(4) 県民の視点にたった運営		
① 文学館の活動や文学についての情報提供	A	・カルチャーサポーターの取り組みは、活動内容が多彩で充実しており、参加者も多く評価できる。 ・県民の目線に立つ館の運営に取り組んでいるほか、広報活動も積極的であり、評価できる。
② 利用者、県民へのレファレンスの状況		
③ 県民参加の活動		
④ 県内の文化施設との連携		
3 資料の適正な管理と活用ができたか	B	◆外からはなかなか見えにくい面もあるが、引き続き今後も充実を図ることを望む。 ◆寄贈資料をうまく活用している点が評価できる。
(1) 資料の収集及び保存管理		
① 資料収集の状況	B	・20年度は、寄贈者との良好な関係を更に進め、貴重な寺田資料や篤姫関連資料の寄贈を受けるなど、一層の充実を図っている。
② 資料の修復		
③ 保存環境の維持		
(2) 資料の効果的な活用		
① 資料データの管理	B	・効果的な活用については、これからの課題として、引き続き充実を図ってほしい。
② 所蔵資料の活用の状況		
③ 調査研究と成果の公表		
4 効率的な運営とサービスの向上が図れたか	A	◆受付の雰囲気や職員の専門性、サービスが向上していることなど、経営努力の成果があがってきていることを評価する。
(1) 経営努力		
① 収入増加の取組	A	・経営努力が収入増に繋がっていることを評価する。
② 経費縮減の取組		
(2) サービス向上への取組		
① 自己点検・評価の状況	A	・職員の専門性が実感できる程に向上しているほか、来館のたびにサービスが向上している点についても評価する。 ・受付の対応は、前年に比べ良くなっている。
② 事故、クレームへの対応		
③ 職員の専門性の向上		
④ その他のサービス改善事項		
(3) 社会的責務		
① 専門的人材の育成	B	・積極的な一連の取り組みは評価できるものの、今後更なる向上を期待する。
② 県内の文化施設を牽引する取組		
③ 法令・規程等の遵守		
5 施設及び設備の管理は適正に行えたか	B	◆展示室の入口の照明は、もう少し明るいものにした方が良い。
(1) 建物や設備の管理状況		
① 点検・修繕の実績	B	
② 第三者への業務委託の状況		
(2) 危機管理		
(風水害、火災、地震、盗難等危機管理対策、マニュアル作成や職員研修など)	B	
総合評価	〔評価委員の意見〕	
A	◆ここ2～3年、特に前年度からの大きな変化は目を見はるものがある。企画展の充実、来観者の満足度も充分だろうと思う。文学館の展示方法や企画に努力が見られるので、20年度は評価できる。 ◆前年に比べ、全体的に明るく活気が出てきている。企画展の工夫、事業展開による新しいファンの開拓に期待したい。 ◆今の館運営の勢いを止めないように、今後一層の伸びを期待する。 ◆文学という展示しにくい素材を観客に伝えようとしている努力が評価できる。 ◆入館者の伸びが顕著。研究機関として、引き続きより深く充実を図ることを期待する。 ◆他の施設は、夜にイベントをやって成功している所もあり、「歴史物」や「怪談」など季節と時間にリンクさせた工夫もあって良い	

※評価の段階の目安

- 「A」 計画や目標を上回る成果があり、優れた管理運営・事業の遂行がされた
- 「B」 概ね計画や目標どおりであり、適正な管理運営・事業の遂行がされた
- 「C」 計画や目標に達しない面があり、改善のための工夫や努力が必要
- 「D」 管理運営・事業の遂行が適正に行われたとはいえず、大いに改善を要する